

つくる会 FAX 通信

第 249 号 平成 21 年(2009 年) 3 月 4 日(水) 送信枚数 2 枚

TEL 03-6912-0047 FAX 03-6912-0048 <http://www.tsukurukai.com>

大学入試センターからの回答届く

つくる会は「偏った歴史認識に基づく設問」とのコメントを発表

当会は、去る 2 月 12 日、本年度の大学入試センター試験の「日本史」の設問は不適切だとして、大学入試センターに対し、その見解を質す文書を送付し、FAX 通信第 248 号(2 月 12 日付)でお知らせしましたが、同センターは 3 月 2 日、その回答となる文書をつくる会あてに送付してきました。

その内容は以下のとおりですが、これに対し、つくる会は 3 月 3 日に開催された第 123 回理事会で協議した結果、下記のコメントを文科省記者クラブにおいて発表しました。

大学入試センターからの回答

平成 21 年 2 月 27 日

新しい歴史教科書をつくる会
会長 藤岡信勝 殿

独立行政法人大学入試センター理事長
吉本高志
(公印省略)

平成 21 年度大学入試センター試験試験問題に関する照会について

「日本史 A」第 5 問問 5、「日本史 B」第 6 問問 5 の御質問についてお答えします。

大学入試センター試験は、大学入学志願者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定するものであり、試験問題は、高等学校学習指導要領に基づく高等学校「日本史 A」、「日本史 B」の教科書に準拠しております。貴殿から御指摘のあった設問についても同様であり、今般の出題は適切なものと考えております。

また、御指摘には「幣原喜重郎に関わる問題でありながら、その在任期間を越えた事件を 2 つもとあげている」とありますが、この問題は「幣原が外務大臣として活躍した期間は、一時の中断をはさんで 1924 年から 1931 年までの長期にわたる」とした上で、その期間である「1920 年代から 30 年代にかけての日本軍の国外活動」について問

うものであり、幣原外務大臣在任期間のみに限定したものではありません。

今後も当方に寄せられる様々な御意見を参考にしながら、良問の作成に努めてまい
る所存です。

回答に対するつくる会のコメント

大学入試センターの見解に対するつくる会のコメント

平成21年3月4日
新しい歴史教科書をつくる会

当会は、去る2月12日、独立行政法人大学入試センターに対し、別紙1の「本年度の大学入試センター試験の『日本史』設問の問題点について」を送付し、同センターの見解を求めておりましたが、3月2日に同センターから別紙2の「平成21年度大学入試センター試験試験問題に対する照会について」と題する文書が届けられました。

同センターの見解は、「試験問題は、高等学校学習指導要領に基づく『日本史A』、『日本史B』の教科書に準拠しており、(略)今般の問題は適切なものと考えております」というものです。

しかし、第一に、高等学校の日本史の教科書に載っている事柄は多様であり、その中からどのような事柄を選び出して設問するかは同センターの見識に関わることであり、学説上様々な異論が提起されている問題をあえて設問するのは極めて遺憾です。

第二に、日本軍の「悪行」とされている問題のみを列挙するような設問の仕方は、偏った歴史認識に基づくものと言わざるを得ず、受験生に圧倒的な影響力を持つセンター試験の設問としては相応しくありません。

第三に、幣原喜重郎の在任期間は1931年までで、1932年のリットン調査団や、1937年のいわゆる「南京事件」は、幣原喜重郎の外交とは何ら関係の無い事柄であって、あえてこれを連結させて設問するところに、日本軍の「悪行」をことさら取り上げて入試問題に仕立てようとする出題者の偏向した態度が表れています。

当会は、今後とも同センター試験の改善を強く求めていくこととします。

(以上)

*別紙1は省略します。